

第1回学校給食用食器検討委員会会議録

平成24年2月14日（火）

午後3時～4時

給食センター2階会議室

（事務局）

定刻前ですが、皆さんお集まりになりましたので、委員会を始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、第1回目の江別市学校給食用食器検討委員会にお集まりいただきましてありがとうございます。また、皆様は各機関・団体からの推薦で委員をお引き受けいただきましたことに対し、お礼申し上げます。ありがとうございました。

私は当委員会の事務局を務めております、給食センター長の福井と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。また、隣は大野業務係長です。

学校給食用食器検討委員会は、委員12名をもって組織しておりまして、児童及び生徒に対し、安心して提供できる学校給食用食器の選定について検討するため、学校給食用食器の安全性等に関する調査審議を行い、食器の更新、選定について教育委員会に意見・提言等を述べることを目的としております。

前回の委員会は後程経過を説明いたしますが、平成19年12月から平成20年6月まで5回の委員会を開催し、教育委員会に意見を提出しております。

今回は、現在使用しております給食用食器のうち小皿と箸（現物を示す）が更新時期を迎えるため、委員会を開催するものです。

それでは次第にしたがいまして進めさせていただきます。

まずはじめに、委員の委嘱状を教育部長からお渡しいたします。

（委嘱状交付）

（事務局）

それでは、委員会に先立ちまして、教育部長よりご挨拶申し上げます。

（教育部長挨拶）

皆さんこんにちは。教育部長の佐藤でございます。日頃より教育行政に種々ご理解ご協力いただきましてありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。また本日は何かとご多忙の折、また暖気がまいりまして足元の大変悪い中、ご参集いただきましてありがとうございます。開会に当たりまして給食センター長からもご説明申し上げましたとおり、この委員会は文字通り学校給食用の食器をご検討いただくということでございまして、初めてということではなく説明があったとおり平成19年度から20年度にかけて食器の選定ということで色々ご検討いただいた経緯がございます。今回、耐用年数といいますか使用の年限がきたことから小皿と箸についてまた新たに選定をしていただくことになるのでございますけれども、昨年3月11日に大震災があったことを契機に、学校教育には限りませんが安全とか安心ということに対しては大きな教訓といいますか我々の生活を見直す一つの大きなきっかけになったのではないかと

感じております。既に予算につきましては新聞発表にもなりましたが、教育委員会としてはまず、学校の耐震化をとにかく押し進めなければならないということで、平成15年から実施してきておりますが、昨年の大震災を契機に拍車がかかったと言いますか文部科学省を含めまして猛烈な勢いで耐震化事業が進められようとしている訳でございます。第一中学校と江別太小学校については全面改築ということに踏み切るつもりで3月の議会に臨んでまいりたい。それから第二小学校のレンガ校舎につきましても早急に建て替えるということで取り組んでいきたいと思っております。そうしますとといったどこが残るのかということですが、統合協議中の江別小学校と第三小学校。これも我々としては新築を目指してご協議いただいているところですが、まだ場所の特定にいたっておりませんので、もう少し時間がかかるものと思っております。大麻小学校にも一部レンガ校舎がありますけれども、ここは実際教育に使っておりませんので取り壊しという方針でございます。あと角山の小中学校でございますけれども体育館は補強ということで補正予算になると思っておりますが繰越明許費という言い方で新年度に取り組むことになると思っております。レンガ校舎も含めた安全安心もそうなのですが、もう一つ給食の食器についても色々な論議があったことは私も承知しております。これからのご協議に当たりまして率直に申し上げて安全とか安心という観点でご協議いただきたいと思いますと思っております。経費面その他の制約がない訳ではございませんけれども材質ですとか重量ですとか価格ですとか色々なことを総合的に考えていただくこととなりますが、やはり子どもたちの口に入るものであるということを考えますと安全安心を第一のキーワードにご検討いただくということによろしいだろうと思っておりますし、いずれその結論が出ましたら教育委員会といたしましてもその結論をしっかり受け止めまして、皆さん方にご協議いただきました結論を尊重して次の食器を導入して行きたいと考えておりますので、よろしくご検討をお願いいたします。

(事務局)

続きまして、各委員から自己紹介をお願いいたします。

(各委員、自己紹介)

(事務局)

それでは委員長・副委員長の選出ですが、選出方法につきまして、どなたかご提案はございますか。

なければ事務局案といたしまして、第三中学校の岩田校長先生に委員長をお願いしたいと思っておりますが、委員の皆さんいかがでしょうか。

賛同いただけましたら、拍手をお願いいたします。

(委員一同拍手)

(事務局)

それでは岩田校長先生に委員長をお願いいたします。

次に副委員長ですが、事務局案としまして、江別市PTA連合会会長の川瀬様をお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

賛同いただけましたら、拍手をお願いいたします。

(委員一同拍手)

(事務局)

それでは岩田校長先生に委員長を、川瀬会長に副委員長をお願いいたします。
委員長と副委員長から一言ずつご挨拶をお願いします。

(委員長挨拶)

私は昨年の4月に今の学校に来ておりますので、この委員会に参加するのも初めてです。この後、前回の委員会の経過が説明されますので、それをしっかり理解して、この委員会の中で新しい食器をスムーズにいい形で選定できるように進めて行きたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

(副委員長挨拶)

私も傾向を見ながら進めて行きたいと思いますが、子どもが4人おりました給食の食器を使用している側なので、そういった点で色々な事を考えて行きたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、この後の議事につきましては、岩田委員長の進行でお願いいたします。

(委員長)

それでは進めてまいります。議事に入る前に、この検討委員会については前回も公開ということ、希望する傍聴者の方については入室していただいておりますので、今回もそのようなかたちで進めてまいりたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

(一同了解)

(委員長)

傍聴者の入室について確認いたしました。

それでは議事に入ります。

まず次第の6 説明事項の前回の委員会の経過についてと資料1～4について事務局から説明願います。

(事務局)

前回の検討委員会の経過などについて説明させていただきます。資料の次第、名簿の次に江別市学校給食用食器検討委員会の経過ということで資料を付けておりますのでご覧いただきたいと思います。

児童生徒に対し、安心して提供できる学校給食用食器の選定について検討するため、『江別市学校給食用食器検討委員会』を設置いたしました。設置要綱につきましては、資料の一番後ろに付けております。

委員会は、学校給食用食器の安全性等に関する調査審議を行い、食器の更新、選定について教育委員会に意見・提言等を述べることをとしています。

平成20年度に中皿を更新するため平成19年12月から平成20年6月までに5回の検討委員会を開催して高強度磁気食器を選定し、教育委員会に意見として報告しました。

記載のとおり、第1回から第5回まで、1カ月あるいは2カ月おきに開催し、20年7月9日に教育委員会に高強度磁器食器とすることで意見を報告しております。

7月24日、教育委員会に素案を提出し教育委員会の承認を得ました。

パブリックコメントということで、9月1日から同月30日まで募集いたしました。

10月24日、教育委員会におきまして、学校給食用食器の中皿については、素案のとおり『高強度磁器』ということで選定されております。

その後、補正予算の議決を経て発注、納品ということになっております。

2ページ目からは、議事録から抜粋いたしましたもので、概略を説明したいと思っております。

第1回ということで、委員長、副委員長の選出をしております。検討委員会設置に係る経緯の説明ということで、前回の場合は、平成19年の2学期が始まる8月から小皿を天然石食器、これはその時点で生産中止ということですが、これに替えてポリエチレンナフタレート製の食器に、箸を曲がりのひどかった竹箸に替えてシンジオタクチックポリスチレン製としました。

そこで、9月に本日出席されている「子どもたちの未来を考える会」からは、食器の材質について、安全性を最優先し、強化磁器や天然素材のものを選択することという要望がありました。食器変更については、計画の段階から保護者や市民に十分周知すること。との要望と、食器の更新理由、選定基準、更新時期、法的根拠等の質問がありました。また、「子どもの健康と環境を守る会」からは、PEN製の食器については、食品安全委員会の安全性評価を受けていない。食品衛生法の個別規格を取得していないため、安全性は保証されていない。食器の材質は、強化磁器や天然素材のものを使用すること。食器変更については、計画段階から市民に公示し、有識者、保護者の代表が入った検討委員会を設置し、安全性を検討すること。との要望がありました。議会でも取り上げられ、その質疑も踏まえ、以後「学校給食用食器検討委員会」を設置して食器の選定をすることになりました。

委員会の一般市民の傍聴及び議事録を公開することを承認しました。

検討対象となる食器の材質別の特徴について資料に基づき説明しました。

資料に関する質疑応答がございまして、材質の原材料の人体に及ぼす影響の度合いが不明なので、もう少し詳しい資料の要求がありました。また、資料の委員会開催前に事前配布することについても要望がありました。

情報提供の要望として、食品衛生法で適合とあって、安全と認識するかもしれないが、人体に対して何らかの影響がある可能性があるとするならばその事実を伝えてほしい。例えば、PEN食器は個別規格が規定されておらず、一般規格のみの適合であって、ペットボトルの個別規格で検査したものが適合しているかのように出回っています。ここで、食品衛生法の個別規格、一般規格という言葉は一般的に馴染みがないと思われませんが、食品衛生法に基づきまして、食品、添加物等の規格基準というものが昭和34年12月28日付の厚生省告示第370号ということで出されています。その中の第3に器具及び容器包装というのがございまして、その中でさらにまた器具若しくは容器包装又はこ

これらの原材料の材質別規格というものがございまして、例えば、ガラス製ですとか、陶磁器製又はホウロウ引きの器具又は容器については溶出試験をしてカドミウムや鉛が出ないかどうか、出ても決められた基準以下であればよろしいということになります。

二つ目に合成樹脂製についてですが、一般規格というものがございまして。一般規格は、材質試験でカドミウム及び鉛が含まれていないかどうかと溶出試験で重金属が出てこないかどうかということになります。これは合成樹脂・プラスチック製品のものの全体に対する規格です。個別規格というのは、色々な合成樹脂製のものについて試験をして基準以下の溶出量であれば合格ということになります。個別規格の対象となる合成樹脂は13ほど記載されておりますが、この中にはポリエチレンテレフタレート、ペットボトルに使われており、一般的にペットと言われているものはありますが、ポリエチレンナフタレートはありません。

資料に戻りますが、食器の材質についての意見ということで、除外してほしい材質として、樹脂プラスチック及び金属、ガラスといったものがあげられています。ポリプロピレン食器については、ポリプロピレンを重合することにより合成されるもので、トマトケチャップ等の着色がある。すると着色部分に洗剤等様々なものが染み込む可能性があることから、好ましくない危険性があるということでした。ポリカーボネート食器ですが、ビスフェノールAが材料に使われております。これは、内分泌攪乱物質、環境ホルモンとしての疑いがある材質と言われています。そのビスフェノールAと塩化カルボニルを合成して製造するため、ビスフェノールAの溶出が心配されるということでした。メラミン食器につきましては、メラミンとホルムアルデヒド、これにつきましては一般的に毒物とされ、発がん性の可能性もあるという意見もあります。この二つを化学反応させて製造しますが、100%化学反応を起こしていないことも考えられるので、それが残ってホルムアルデヒドの溶出が心配されるということです。

金属につきましては、安全性はあると思うが食器として適さない。家庭では使わないのではないかという意見です。

ガラスですけれども、破損時に破片が危険である。1990年代後半に強化ガラス食器、製品名でいいますとコレールですが、破損事故がございまして、眼球に失明に近い怪我を負った事件が2件ほどありまして給食食器としては敬遠されているというのが現状です。

第1回目の委員会の決定事項としまして、金属とガラスは選択肢に入れない。それ以外のプラスチック（樹脂）製品や強化磁器等について検討していくということになりました。

第2回の議事録からですが、前回の議事録内容の確認と訂正部分の確認をしています。資料としましては、材質別比較表が作られました。材質につきましては、強化磁器の深皿、弁当箱、ポリカーボネート製食器、ポリエチレンナフタレート製の小皿、メラミン食器、天然石食器の中皿です。比較事項としましては、原材料、添加剤、比重、硬度、耐熱温度、耐薬品性、長所、短所、特長等記載したものが提示されております。

意見といたしまして、環境ホルモンに関係するような、ビスフェノールAを原料とし

ているポリカーボネート製食器やホルムアルデヒドなどが原材料となっているメラミン食器は最初から検討の中に入れたい方がよいという意見がございました。現在製造されていない天然石食器も検討の中に入れたい方がよい、入れても意味がないという意見も出されました。そうしたことから、3種類は検討に入れたいことで確認されています。

事務局から、次回の検討委員会で調理場内の作業現場を実際に見学してもらうことの提案がありました。現場の作業工程だとか、どういうふうに食器が洗浄されるのか、それから食器はどういうようにして運搬され、どういう器具で行っているのか、そういったことについて、ぜひ現場を見ていただきたいということの提案でした。

見学日についての日程調整や見学の仕方について様々な意見が出されました。

確認事項といたしまして、比較検討材質から上記の3種類が除かれたことで、強化磁器とポリプロピレン、ポリエチレンナフタレートに絞られ、その中で検討していけばよいということが確認されています。

要望といたしまして、プラスチックは、破損というより経年劣化で、約千回の洗浄で全部入れ替えると伺っているので、強化磁器の破損率について聞きたということ、次回資料を提供することになりました。

第3回の議事録から、資料についての質疑ということで、Qは委員からの質問、Aは事務局（給食センター）の回答です。

質問の一つ目、強化磁器の価格が940円から1280円と高く記載されているが、あるメーカーのものは640円となっています。こういったものは線や絵柄など装飾が入ると割高になります。ここで高いものを資料として出されても、値段の比較ができないのではないのでしょうか。（ポリプロは200～740円、PENは910～950円と記載されています。）

回答としまして、中程度の価格のものを資料に載せましたが、これをそのまま購入するというわけではありません。価格帯については、次回までに整理し、資料としてお配りしたいと思います。ということでしたが、実際に購入した強化磁器食器は490円でした。

以前お願いしていたセンター内の破損率の資料がありません。という質問に対して、導入当初の見込みでは、全体で2割ほど破損すると考えていたところ、年間補充数から約15%ということ、実際のほうが割れづらかったと考えています。今回の資料は4校のみの抽出資料となっています。センターと学校それぞれの破損率については学校の協力が必要なので、お時間をいただきたいということでした。この時点では、学校から破損したという報告があるところもあれば、ないところもあるという状況で、きちんとした資料がなかったので、4校を抽出して資料を作ったということです。

質問としまして、給食センターでは、食器が重いということで肩や腰を痛める方は多いのですか。

回答としまして、正確な数字ということではありませんし、手術などといったことは聞いておりませんが、半数は腰痛などを持っているようです。

続きまして、会議室で調理場の様子を写したビデオテープを視聴しまして、作業工程の

見学をしたということです。

見学後の質疑・感想等ですが、オートメーションで食器が流れていくのではないかと思うのですが、カチャンと落ちたり重なったりというものがあるのだなと思いました。そういう中でも今のどんぶりというのは、目に見える破損はないと考えていいのでしょうか。

回答といたしまして、劣化してひびが入ったり、機械の中に入って割れるということがあります。いきなり出口で割れるということはありません。

感想ということで、プラスチックが5年で総入れ替えというお話ですが、あれだけの熱が加えられれば総入れ替えになるほど劣化が進むのだなと改めて思いました。強化磁器の深皿（カップ）は確かに重いのですが、その点だけを強調してしまうと、今回、中皿を検討しているわけですが、深皿さえも強化磁器ではなくなってしまうのかなという懸念があります。できれば、作業性を考えたほうがいいのかもかもしれませんが、検討委員会の最初の趣旨である、子ども達に安全な食器をとという観点をはずさずに、皆さんで話し合っていけたらいいのではないかと思います。ということでした。

質問として、給食センター側として、現段階で磁器、P P、P E Nのどれが好ましいと考えますか。ということでしたが、回答は、いろいろな方にお集まりいただいて一から決定していこうというのがこの会ということです。ですから、今の時点では私どもは、事務局としてこれにしようということは一切ありません。

協議として委員長から、委員のほうでは、安全面で順位的に言うとどれが一番安全だということはありませんか。という質問に対して、委員からの意見は、強化磁器が1番で、P PとP E Nは使って欲しくないと思います。その理由ですが、P Pは着色汚れがありまして、トマトシチューなどの給食が出ますと、次の日にオレンジ色が食器に付いて、洗っても取れないということです。洗っても取れないということは、そこに合成洗剤の成分も残っているかもしれない。材質的には国のほうで十分検討されていますが、着色汚れや温度を上げての管理という中で、割れたりしなくても目に見えない劣化があるということです。P E Nは、第1回の検討委員会で配布された資料に一般規格と個別規格というのがあります。プラスチックというのはそれぞれに含有している成分が違うので、国がそれぞれについて安全性を確認するために個別規格というのを設けています。P E Nは新しい樹脂なので個別規格がありません。一般規格で出回っています。ということは、最低限のカドミウムと鉛が材質試験で、溶出試験は重金属と過マンガン酸カリウム消費量、この4つだけを調べるということです。この時点でP E Nの個別規格はできるような情報はあったのですが、私の調べたところでは現在でも個別規格はできておりません。

第4回の委員会の議事録から、委員交代ですが、人事異動や役員交代により4名が新任委員となっております。続いて、前回の質問事項について事務局から説明しております。

まず、破損率について、5月13日の定例校長会におきまして校長会事務局から周知していただき、食器が破損した場合には学校から両調理場に連絡をいただくことになりま

した。以後、破損率については記録しております。したがって、学校における破損状況については、それ以降確認できることになりました。また、給食センター内での破損状況につきましては5月の連休明けから、確認しております。その結果、センター調理場、対雁調理場も含め、全部で41枚割れたということになります。1ヶ月弱の期間ですから、通常の15%の破損率から見るとかなり低い数字になりますが、まだ短い期間ですので今後も資料として継続して作成していきたいと思っております。ということで、今回のちほど説明いたします資料のなかにも破損率の資料がございます。

次に、ダムウェーターの設置状況ということの質問がありました。ダムウェーターといいますのは、給食の食缶や食器を学校の2階や3階に運び上げるエレベーターの小さいものです。未設置校は1校で江北中ですが、既に三中と統合いたしましたので、現在では問題になりません。不使用（故障）校は大森小学校1校です。不使用校には小さいものが1つありますが、現状は児童が運んでおり、ダムウェーターは使っていないということです。両校ともダムウェーターの設置、補修についての要望はこの時点では教育委員会に出てきておりませんでした。

第4回委員会の検討事項について事務局から説明がありました。強化磁器、ポリプロピレン、ポリエチレンナフタレートの3種類の食器についての重量、価格について資料により説明。価格は強化磁器とポリプロピレンが同等で、ポリエチレンナフタレートはその1.4倍。重量は強化磁器、ポリプロピレン、ポリエチレンナフタレートがそれぞれ214g、69g、87gで、強化磁器が一番重く、ポリプロピレンが一番軽いという説明でした。

質疑といたしまして、比較表での大きさが、強化磁器は直径168mm×高さ28mm、ポリプロピレンとポリエチレンナフタレートが160mm×25mmとなっているが、重さを問題とするならば、直径、高さの同じものを他社で検討したのかを伺いたい。

回答としましては、他社との比較はしていません。既製品でカタログに掲載されている160mmものを探し、なかったものでそれに近いものとして168mmのものを資料に載せました。実際に作る場合は160mmで作ってもらうことは可能だと思います。そうすると若干軽くなります。ということで、実際は、その時点で使用していた天然石食器と同じ150mm×25mmで作成し、価格は490円（税抜）でした。

ここでは、前回の委員会で予算的なものも資料提供するというところで提出したが、強化磁器にした場合に重くなり、そのためカゴを二つにしたらどうなるか等の資料を提出したが、あくまでも設置要綱に基づき食器の安全性について議論すべきとの意見が出されています。結果としましては、強化磁器の中皿を導入する際、学校には重たくて食器カゴを二つにしてほしい場合はセンターの方と協議するとしていたが、二つにしてほしいという希望はありませんでした。

提案として、委員から美濃焼の高強度磁器食器というのがあります。これは強化磁器よりも強く破損率も少ないです。素成（材質）については強化磁器と同じアルミナと長石で、どこが強化磁器と違うかといえば強くて若干軽いです。価格は強化磁器とあまり変わりません。また3,500箇所くらいの納入実績があります。直径160mmで重さ

が170gです。再生ができます。つまり、壊れたものを全部集めておいて、きずがついた場合は焼き直しで新品同様になります。壊れてしまった場合、たぶん強化磁器は廃棄していたと思いますが、これは粉にして焼き直し、リサイクルという形で再利用できます。ということでした。

この後、リサイクルの輸送経費や価格、直径150mmのものが作れるか等について質疑がありました。

高強度磁器食器を選ぶ方向で進行したため、委員会を一時中断し、その時点で直接メーカーに問い合わせ、希望のサイズが出来るかどうか確認しております。その結果、新たに型を作るとなるとはっきりした金額は出ないが、15万円くらいということを確認。価格は、最大1枚当たり500円かもう少し安くなるかもしれないということです。先ほども説明していますが、価格は490円（税抜）でした。

決定事項といたしまして、正式に高強度磁器食器の見積もりを徴収する。ということと、高強度磁器ということで方向性が決まったので、いろんな情報をもって次回最終決定する。さらに教育委員会への意見報告文書を作成し、委員の皆さんに確認してもらって提出する。ということになりました。

最終の第5回検討委員会は、資料によりまして、二つの販売元の高強度磁器食器と強化磁器食器の見積金額比較表を説明しました。

安い方のデザインで直径150mm、高さ25mmで製作しますと492円とのことでした。重さは、作って見ないとはいっきりしないという回答でしたが170g程度かもう少し軽くなるかもしれません。ということでした。納品重量は155gでした。実際に使用している市町村の状況について、導入経過や破損率等について説明・報告しております。

報告書案を配付して説明し、欠席委員には、報告書を送りまして、全員で了解してもらうことで決定しました。

検討委員会の内容の概略につきましては以上ですが、実際の内容はものすごい量になります。これら5回の検討委員会における資料及び議事録等につきましては、冊子にしたものがございますので、詳しくご覧になりたい委員の方はお持ちいただくことができます。

続きまして、資料の説明をさせていただきたいと思います。

まず資料の1ですが、現在北海道の学校ではどのような材質の食器が使われているかということですが、各市町村から情報を収集し、道教委が平成22年度の北海道の学校給食についてまとめたものから、使用食器の材質の資料を抜粋したものです。

欄外に説明書きがありますが、道内179市町村のうち、牛乳のみ提供しています9自治体を除く170市町村についてのデータです。

これから検討委員会で協議します学校給食用食器の材質別使用状況で、江別市が汁ものを入れるカップと中皿を強化磁器、小皿をポリエチレンナフタレートとしているように複数の種類を使用する場合がありますので、総数では100%を超えて、小学校で126.6%、中学校で127.3%、合計で126.8%というように100を超える

パーセンテージとなっています。

北海道で多く使用されていますのは、1番目が強化磁器で小中学校合わせて771校41.9%が使用しています。続いて、ポリプロピレンが456校、24.8%、3番目がポリエチレンナフタレートで387校21.0%となっています。4番目のメラミンまでが使用率二けたでそれ以下は3%未満の使用率となっています。金属やガラス及びポリカーボネートはほとんど見られなくなっております。

次のページの資料2でございます。

さきほど申しました破損率の状況です。平成20年の5月からデータ収集を始めたということで、平成20年度は11カ月なので平成21年度と22年度について記載しております。前回の検討委員会でも検討資料として重要となりました強化磁器食器の破損率です。カップ（小学校用と中学校用の実物を示す）につきましても、高さがあり形状からいってお皿よりも構造上割れやすくなっています。それでも平成21年度1年間で11,000枚使って798枚割れたということで、7.25%の破損率になります。平成22年度もほぼ同様の7.31%です。資料は2箇所の調理場別にそれぞれ調理場内、小学校、中学校に分けて記載しています。やはり、小さなお子さんが落とす確率が高いのか小学校での破損が多く、調理場においてはそれほど破損しません。全体の破損数に占める割合はセンター調理場の方が多くなっていますが、食数が今現在センターで6,716食、対雁が4,068食と差があり、使用枚数が違うためセンターの破損数が多くなっています。

皿につきましても、形状的にも強度がありカップに比べますと破損率は低くなります。平成21年度が3.65%、平成22年度が5.04%です。

いずれにしても、10%に満たない破損率でありまして、破損による補充経費負担が軽くなっています。先ほど出てきたお話しでは当初想定が20%の破損率とか15%といった数字が出てきていましたが、現状ではこういった10%以下という状況でございます。

続いて資料3でございます。

資料3は今回選定する小皿につきましても、参考として強化磁器と現在使用していますポリエチレンナフタレート製のものとポリプロピレン製のものについて、1枚当りの重量と単価を掲載しています。強化磁器の重量につきましても、仕様等の欄に記載しております現在使用している直径130mm×高さ25mmと同じ形状のものが前回同様カタログにありませんので、使用中の強化磁器の中皿、これが150mm×25mmであることと、130mm×25mmの類似の大きさの重量から概ね120g前後と推定しております。前回も中皿について推定で170g程度としていたものが作成してみると155gとなりました。ポリエチレンナフタレートのもは現在使用しているもので、ポリプロピレンのもはこれより安いものも高価なものもありますが、中くらいのものを記載しております。

続きまして、その下の資料4ですが、現在使用中の食器及びはしなどを入れたカゴ重量を含む全体重量と小皿を強化磁器にした場合とポリプロピレンにした場合の比較重量

を記載しています。強化磁器とした場合は現状より2.56kg重くなり、ポリプロピレンにした場合は0.48kg軽くなります。

資料の説明は以上でございます。

(委員長)

これまでの経過と5回の会議の内容について詳しく説明がありました。

それでは、今事務局から説明がありました経過報告と資料の内容につきまして、質問等ありましたらお願いします。

(委員長)

それでは、質問がないということなので、進めさせていただきます。

それでは、協議事項に移りたいと思いますが、まず、今後の委員会の進め方について皆さんからご提案はありませんか。

ないようですので、事務局の方から提案をお願いします。

(事務局)

まず、委員会で検討していただく事項のひとつ目は、現在使用しているポリエチレンナフタレート製の小皿、これをどのようなものに更新していくかということになります。ふたつ目は、現在使用しているシンジオタクチックポリスチレン製の箸、これらについての更新する皿と箸の材質の検討ということになります。まずは、小皿からの検討ということで、検討の対象にする材質について決めていただきたいと思います。前回の経過と資料で説明しましたように、材質はたくさんあるのですが、案としては前回と同様に金属やガラスは除外して、資料1の上位3素材であり、また資料3・4に例示した3素材について検討するか。あるいはこれ以外に検討する素材があれば加えていただくこともできますし、あるいは3素材の中で検討しなくてもよいのではないかという意見があればそれを除くかどうかについて協議をお願いしたいと思います。この段階で検討すべき素材が一つになってしまいますと検討の余地がないということになりますが、検討素材が決まりましたら、委員の皆さんでどれがよいのか意見を出していただくことになりかと思えます。箸につきましては、小皿が決まってから検討することもできますし、平行して素材を検討することも可能です。方向性が決まりましたら、必要な資料等ご用意させていただきたいと思います。

(委員長)

それでは、協議の方向性について事務局から提案がありました。検討するのは、小皿をどうするかと箸をどうするかという2点あります。まず、1点目の小皿の方の検討でありますけれども、先ほど提案のあった3種類の中から選定するかそれともそれ以外の検討する素材を加えるかあるいは3素材の中から除く素材があるかということですが、そのような方向性を決めていきたいと思えます。それから2点目の箸については、今検討しようとしている小皿を決めてから検討するかそれとも小皿と並行して検討するかということで決めていきたいと思えます。

それでは、小皿についてご意見をいただきたいと思います。

(委員長)

意見がなければ、その3種類について検討するというところでよろしいですか。

(A委員)

今回は小皿、前回は中皿ということですが、大きさが違うだけで皿には変わりありません。それから前回検討している時にはなかった素材が出てきていけば別ですけどもそれが無いのであれば同じ皿ですから、前回と同じ強化磁器、これ一本で検討する余地はないのではないかと思います。

(委員長)

このような意見が出ましたが、もし1種類になればそれで結果は見えてしまうのですが、ただ重量が重くなるとそれが課題にはなるかと思えます。

その他のご意見はありませんか。

(委員長)

意見としてはまだひとつしか出ていませんが、事務局としてはいかがですか。

(事務局)

前回の流れを説明いたしましたけれども、なかなかそれを覆す意見や異なる意見というのは出しづらいのではないかという認識がございます。ですから、強化磁器になる方向性が強いのではないかと考えておりましたが、重さ等も含めて総合的に考えて皆さんが強化磁器で構わないというのであれば、決まってしまうのかと思えます。そうなることと検討するのは箸ということになります。

(委員長)

先ほどもお話ししましたように、前回の委員会の中で安全性も含めて話し合った結果が強化磁器という結論になったと思えます。ただ、今言いましたように磁器にした場合重さがクリアできれば強化磁器という方向性は特段問題ないと感じております。

(事務局)

委員長よろしいでしょうか。本日インフルエンザにより欠席の連絡があった委員には今回の委員会につきましては結論までには至らないだろうということでお話ししており、内容的にも次第にあるとおり前回の経過説明と資料説明で、今後の進め方について決めますと伝えているので、この時点ではっきりと強化磁器決めるのではなく、結論は次回以降にさせていただければと思えます。強化磁器でよいとするご意見があったということとどめておいていただければと思えます。

(委員長)

方向性については、強化磁器としたいのですが、先ほど言った重さの課題、そのほかの課題を出していただいて、それについて調べたりして次回進めていきたいと思えます。

(委員長)

強化磁器とした場合、重さ以外で何か課題になるようなことはありますか。

(B委員)

重さについては、重要だと思います。

(委員長)

中学校でも女子は結構重そうにしていると聞いています。その場合男子が持つとか女

子が二人で持つとか中学校は何とか今の状態では耐えられると思います。ただ、2～3 kg増えた場合はどうなるかやってみないとわかりません。また、小学校の低学年になると状況が全然違うと思います。

(委員長)

そのほかございませんか。

学校関係者の先生方については、そのあたりをもう少し学校に戻ってから食器重量が2～3 kg増えた場合はどういった影響があるかについて他の先生方にも聞いていただきたいと思います。

今回は、今言ったような方向性で話し合うということで整理したいと思います。

それでは、もう1点の箸の方ですが、箸については資料が今日現在ありませんし、他の市町村でどんなものを使っているかとかの資料を持ち寄って、またその安全性も含めて素材がどういうものがあるのかを確認したいと思います。それがなくなかなか話を進められないのではないのでしょうか。

事務局の方でそのような資料を用意できますか。

(事務局)

小皿を決めてからにするのか、平行して検討していくのかについてはどうでしょうか。

(委員長)

皆さんどうですか。

それでは、小皿と箸を並行して検討していくということで確認したいと思いますが、よろしいですか。

(一同了解)

(委員長)

今回は、そのように進めたいと思います。

今日の議題としては、これでいいですか。

(事務局)

けっこうです。

(委員長)

それでは、次回開催日についてですが、委員の皆さんいかがですか。

(A委員)

今日は資料をそのまま読んでの説明でしたが、今回は会議の前に委員の手元に届くようお願いいたします。そうするとスムーズに会議が進行すると思います。

(委員長)

そういったご意見ですが、事務局いかがですか。

(事務局)

わかりました。

(委員長)

その他、意見ございませんか。

ないようですので、最後事務局からお願いします。

(事務局)

それでは、協議事項の(2)に書いてあります次回開催日ですが、可能であれば来月開催したいと思います。お手元にファックス送信票とした日程調整の用紙をお配りしております。3月の19日月曜日の週で、20日火曜日は祝日ですので、それ以外の日の都合の良い日にまるを、都合の悪い日にぼつを付けていただければと思います。遅くとも今週中に出していただきたいと思います。ファックスでも電話でも結構です。開催時刻は3時からにしたいと思います。

(委員長)

次回の委員会についての説明がありましたが、よろしいでしょうか。

それでは本日の予定がすべて終わりましたので、以上をもちまして第1回の食器検討委員会を終わらせていただきます。ありがとうございました。